

日本映画復興会議

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-12-9

グランディールお茶の水 301 号室

電話 080-5462-2389 (井上) FAX 03-3964-3995

Email jim@nefk.net

http://nefk.net/

第 31 回 (2013 年度) 日本映画復興賞の決定

2014 年 3 月 28 日

日本映画復興会議は、2013 年度第 6 回幹事会 (2014 年 3 月 19 日) において、今年度の日本映画復興賞を次の通り決定しました。選出に当たっては、復興賞委員会における準備選考のほか、会員からの推薦を受け、幹事会において慎重に検討しました。

賞の贈呈式および祝賀パーティーは本年 5 月 24 日 (土)、NHK^{せいざん}青山荘 (東京・表参道) の 2 階「^{いちよう}銀杏」において、午後 4 時半より開催します。なお、当日午前 10 時より同所にて、日本映画復興会議全国集会を開催します。

第 31 回 (2013 年度) 日本映画復興賞受賞者

日本映画復興賞 (3 件)

- ・映画『少年 H』の降旗康男監督はじめスタッフ一同
- ・映画『標的の村』の三上智恵監督
- ・映画『ひまわり 沖縄は忘れないあの日の空を』の及川善弘監督はじめスタッフ一同

日本映画復興奨励賞 (5 件)

- ・映画『遺体 明日への十日間』の君塚良一監督はじめスタッフ一同
- ・映画『渡されたバトン さよなら原発』の池田博穂監督はじめスタッフ一同
- ・映画『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』の齊藤潤一監督はじめスタッフ一同
- ・映画『原爆症認定集団訴訟の記録 おりづる』の有原誠治監督
- ・映画『食卓の肖像』の金子サトシ監督

以上

【選評】

日本映画復興会議は度重なる審議を通じ、第 31 回（2013 年度）日本映画復興賞 3 作品、日本映画復興奨励賞 5 作品を決定しました。2013 年度は、東日本大震災からの復興、原発ゼロ運動、平和と憲法を守る運動等々、日本が現在直面している切実な社会問題を反映した意欲的な作品が多く公開された年でした。

それでは、復興賞を受賞した 3 作品を紹介します。最初に、降旗康男監督作品『少年 H』は、太平洋戦争時代の暗い戦時下を逞しく生きる名もなき家族を暖かく見つめた作品として最も高い評価を得て、復興賞に選定しました。また、今まで見ることの少なかった沖縄の現実を鋭く描写し、見る者を圧倒するドキュメンタリー映画『標的の村』を復興賞に選定しました。同じく沖縄の悲劇を描いた『ひまわり～沖縄は忘れないあの日の空を～』は、戦後の沖縄を問いかけた作品として全国で感動を呼んだ功績を評価し、復興賞に選定しました。

次に、奨励賞に選ばれた 5 本の作品を紹介します。劇映画『遺体 明日への十日間』は、東日本大震災での遺体の処理にあたる人々をドキュメンタリータッチで克明に描き、人間の命の尊厳を描いた本年屈指の作品として奨励賞に選定しました。同じく奨励賞に選定した『渡されたバトン さよなら原発』は、全国初の住民投票で原発建設をやめさせた人々の果敢な運動と戦いをドラマチックに描き、作品は全国で公開され成功しました。また、ドラマ形式の部分と関係者の証言を組み合わせながら、半世紀の長きに渡り決着がつかずにいる冤罪事件を描き、観客に感銘と感動を与えた『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』を奨励賞に選定しました。そして、10 年に及ぶ原爆症認定集団訴訟の戦いを克明に描いた優れたドキュメンタリー作品『原爆症認定集団訴訟の記録おりづる』を奨励賞に選定しました。さらに、『食卓の肖像』を奨励賞に選定しました。本作は、戦後最大クラスの食品公害事件を題材に公害の変遷を丹念に描き、見る者に感銘を与える監督渾身の一作となっています。

そのほか、受賞にはあたりませんでした。若き日の木下恵介を描いた『はじまりのみち』、そして、今日の日本の家族を克明に描いた『日本の悲劇』、山田洋次監督の『東京家族』に、日本映画復興会議は高い評価を表します。

日本映画復興賞

映画『少年 H』の降旗康男監督はじめスタッフ一同

日本が 1941 年太平洋戦争に突き進む暗黒時代、異国情緒あふれる神戸の街を舞台に、少年 H の成長を通じて戦争を生き抜いた名もなき家族の愛と勇気と真実の物語の映像化に本作は見事に成功しています。主演の水谷豊をはじめ演技陣の演技はもちろん、戦争を憎み平和を希求する家族の物語を描き出した降旗康男監督とスタッフの仕事は高い評価に値するものです。その功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興賞

映画『標的の村』の三上智恵監督

オスプレイ配備に向けた着陸帯建設に対し反対の声をあげた沖縄の住民たちを、国は恫喝裁判などで圧力をかけます。そして、オスプレイ配備前夜、沖縄の人々は、ついに米軍基地を包囲して封鎖します。警官たちが排除しようとしませんが、この警官たちも同じ沖縄人なのです。沖縄の人たちが怒り、泣いている心の叫びが聞えてくるようでした。この映画が日本全国で上映されたことは、沖縄の人たちの闘いをほとんど報道してこなかった沖縄以外のマスメディアへの痛烈な批判でもあります。この優れたドキュメンタリー映画に対して、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興賞

映画『ひまわり 沖縄は忘れないあの日の空を』の及川善弘監督はじめスタッフ一同

本作は、1959 年に起きた沖縄・宮森小学校への米軍ジェット機墜落事故を題材に、現在まで沖縄に基地負担を強いてきた戦後の歴史を問いかけています。歴史を知り、「もう基地はいらない」とピースコンサートを企画する若者たちの姿に、沖縄の人たちの思いが重なり、ラストシーンでスクリーンいっぱいに咲き誇る平和の象徴のひまわり畑も強い印象を残します。沖縄はもとより全国各地で上映会が進められています。その功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『遺体 明日への十日間』の君塚良一監督はじめスタッフ一同

本作は、東日本大震災で甚大な津波被害に遭った釜石市で、この未曾有の災害に立ち向かった住民たちの姿を描くルポルタージュを映画化したものです。この扱いの難しい題材を、西田敏行をはじめ優れた俳優を各所に配して丁寧に演出しており、がれきの山からご遺体を運ぶ人々、安置所で働くボランティアや医師、遺族らの姿を通じて、人間の尊厳とは何かの説得力をもって伝わります。この大震災を、数量で捉えがちなわれわれに、忘れてはならないものを思い出させてくれる作品となっています。その功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『渡されたバトン さよなら原発』の池田博穂監督はじめスタッフ一同

本作は、新潟県巻町にもちあがった原発建設計画をめぐる人々の意識の変化を、老舗割烹の家族を中心に描きます。最初は、夫を先頭に原発に賛成していたものの、娘たちが原発懐疑から反対へ転じ、家族ぐるみで反対派に変わっていきます。そして、町民のなかにも反対派の団体が結成され、創意的活動を積み重ねて、1996年、原発計画の賛否を問う住民投票では反対派が勝利します。全国初の住民投票により原発建設を阻止した貴重な運動と闘いを実話に基づき映画化しました。その功績を讃え、今後の一層の活躍を期待し、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』の齊藤潤一監督はじめスタッフ一同

東海テレビのスタッフはこれまでも優れた司法もののドキュメンタリーを製作してきました。本作は、仲代達矢が迫真の演技で死刑囚の心情を表現するドラマ形式の部分と、関係者の貴重な証言などのドキュメンタリー映像とを巧みに組み合わせ、半世紀の長きにわたり死刑囚として服役している冤罪事件の実像に迫り、多くの観客に感銘を与えました。その功績を讃え、今後の一層の活躍を期待し、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『原爆症認定集団訴訟の記録 おりづる』の有原誠治監督

原爆症認定集団訴訟の10年に及ぶ画期的な闘いに寄りそった本作品は、原告の被爆者をはじめ、多くの関係者に丹念なインタビューを重ね、集団訴訟の重要な意義や行政の問題点を、感動的かつわかりやすく記録しました。また、原爆症に苦しみながらも、ねばり強く闘い続ける姿は、多くの人びとを勇気づけました。さらに、福島原発事故の放射能被害へ対峙していく上でも、貴重な記録となっています。その功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

映画『食卓の肖像』の金子サトシ監督

「カネミ油症事件」とは、1968年に福岡、長崎、広島、山口、佐賀など西日本一帯で発覚した戦後最大級の食品公害事件。被害者たちは様々な全身症でずっと苦しみ続けてきました。子どもたちや孫たちにも健康被害が起きています。貴方は10年間の取材で被害発生当時のことや症状の変遷について丹念に聴き取り、被害の全貌を明らかにするとともに、被害者が力強く生きている姿を克明に描いています。その功績を讃え、さらに今後の一層の活躍を期待し、頭記の賞を贈ります。

〈参考〉

「日本映画復興会議」について

日本映画復興会議は、日本映画の文化的・産業的復興と民主的な再生をめざして活動を進めています。

日本映画復興会議は 1961 年、高度成長とは裏腹に映画観客動員数が激減する危機のなか、映演総連（映画演劇労働組合総連合＝現映演労連）、全映演（全国映画演劇労働組合連合）の呼びかけによって、独立プロ、普及事業者、鑑賞団体、作家等が参加し、設立されました。以来 50 年以上にわたり、時代ごとのさまざまなテーマに取り組んできました。

現在は、年 1 回の全国集会で映画界が直面する多様で複雑化する課題を分野の垣根を越えて共有することに努めるとともに、映画界の発展のための各種活動、「日本映画復興賞」の運営などを行っています。

〈2013 年度役員〉

代表委員 大澤 豊（こぶしプロダクション代表取締役 映画監督）

桂 壮三郎（ゴーゴービジュアル企画代表取締役 プロデューサー）

事務局長 井上 徹（エイゼンシュテイン・シネクラブ代表 映画研究者）

「日本映画復興賞」について

故山本薩夫監督の発意により 1983 年から始まったもので、「平和と民主主義を守り、戦争に反対し、ヒューマニズムの理念に徹した日本映画の業績」を表彰する賞です。厳しい映画情勢のもと、製作・配給（普及）・興行・鑑賞などの各分野で、日本映画の産業的復興と文化的向上を進めるため、懸命の努力を続けている多くの人々に対し、そのたゆまぬ努力を積極的に評価し、激励する役割を果たしてきました。

日本映画復興会議幹事会において受賞者を決定して毎年 3 月に発表し、日本映画復興会議全国集會に併せて授賞式を開催しています。

日本映画復興賞 受賞作品・団体・個人一覧

(1983～2013年)

□第1回 [1983年度]

- ◇復興賞・木下恵介監督
【映画『この子を残して』など戦後一貫した優れた業績にたいして】
- ◇奨励賞・乙羽信子氏
【日本初の反核映画『原爆の子』をはじめ、数多くの優れた日本映画に貢献】
- ◇奨励賞・人形アニメ『おこりじぞう』製作スタッフ一同
【反核平和の主題を優れた技術で豊かに表現した】

□第2回 [1984年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・小栗康平監督
【映画『伽耶子のために』の優れた演出】
- ◇奨励賞・記録映画『悪魔のミサイル・核トマホーク』『生きるための証言・いまヒロシマから』『海・いまトマホークが』『核戦争3分前！横田基地は…いま』の各製作スタッフ一同
- ◇奨励賞・広島国際アマチュア映画祭
【平和と生きることの尊さをモットーに映像文化の発展に貢献】
- ◇特別賞・渥美清氏
【映画『男はつらいよ』シリーズの主演者として】

□第3回 [1985年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『戦場ぬ童』製作スタッフ一同
- ◇特別賞・故 浦山桐郎監督

□第4回 [1986年度]

- ◇復興賞・映画『キネマの天地』製作スタッフ一同
【日本映画の伝統を継承し発展させる情熱を込めた作品にたいして】
- ◇復興賞・映画『母さんの樹』製作スタッフ一同
【困難の自主製作・自主上映運動により闘う女性労働者のイメージを創造】
- ◇復興賞・記録映画『さくらんぼ坊や』6部作『アリサーヒトから人間へ』の製作スタッフ一同
【10年間にわたり優れた幼児教育実践を記

録した】

- ◇復興賞・田村高廣氏
【映画『春駒のうた』『海と毒薬』への貢献】
- ◇特別功労賞・木村荘十二監督
【日本映画の長老として戦後は教育、児童映画の発展に貢献した】

□第5回 [1987年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・親と子のよい映画をみる会〔親子映画運動〕
- ◇奨励賞・記録映画『ドキュメント三宅島』『怒りの三宅島』の製作スタッフ一同

□第6回 [1988年度]

- ◇復興賞・新藤兼人監督
- ◇奨励賞・日本電波ニュース社
- ◇奨励賞・千野皓司監督
- ◇奨励賞・全国農村映画協会
- ◇奨励賞・運輸一般
- ◇奨励賞・記録映画『足跡』の国鉄労働組合と斉藤茂夫監督ほか製作スタッフ一同

□第7回 [1989年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・国立市職員組合内「原爆の映画を毎月上映する会」
- ◇奨励賞・映画『さくら隊散る』福井県下100カ所上映運動
- ◇特別賞・日本記録映画作家協会
【創立35年間の活動にたいして】

□第8回 [1990年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『ビキニの海は忘れない』製作スタッフ一同
- ◇特別賞・今井正監督

□第9回 [1991年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・アニメ映画『うしろの正面だあれ』の有原誠治監督ほか製作スタッフ一同
- ◇奨励賞・大阪シナリオ学校
- ◇奨励賞・映画『戦争と青春』の市民プロデューサー運動

◇奨励賞・映画『北緯 15° のデュオ』の根本順善監督ほか製作スタッフ

□第 10 回 [1992 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・映画『シコふんじゃった』の周防正行監督ほか製作スタッフ
- ◇奨励賞・記録映画『同姓同名者からの手紙』の金高謙二監督ほか製作スタッフ
- ◇特別賞・故 大黒東洋士氏

□第 11 回 [1993 年度]

- ◇復興賞・映画『学校』の山田洋次監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・神山征二郎監督ほか関係スタッフ
- ◇奨励賞・アニメ映画『つるにのって』のピース・アニメの会の運動
- ◇功労賞・糸屋寿雄氏
- ◇感謝状・故 川喜多かしこ氏

□第 12 回 [1994 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・中山節夫監督

□第 13 回 [1995 年度]

- ◇復興賞・堀川弘通監督
- ◇奨励賞・星山 圭監督
- ◇奨励賞・近藤喜文監督
- ◇奨励賞・高橋一郎監督を中心とした製作集団

□第 14 回 [1996 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・『人間の翼—最後のキャッチボール』の岡本明久監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・『金色のクジラ』の大澤 豊 監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『人間の住んでいる島』の橋祐典監督をはじめ製作委員会一同
- ◇奨励賞・映画鑑賞団体全国連絡会議 [全国映画連]
- ◇感謝状・故 渥美 清氏

□第 15 回 [1997 年度]

- ◇復興賞・熊井 啓監督
- ◇特別賞・岩波ホールの高野悦子総支配人ほかスタッフ一同
- ◇特別賞・樋口源一郎監督
- ◇特別賞・スタジオジブリ・スタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『誘拐』の大河原孝夫監督ほか

スタッフ一同

- ◇奨励賞・岡山市職員労働組合
- ◇奨励賞・『PiPi ピピ とべないホテル』石川県上映をすすめる会
- ◇奨励賞・平和映画を上映する会 (多摩市)
- ◇功労賞・能登節雄氏

□第 16 回 [1998 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・松井久子氏
- ◇奨励賞・映画『カメジロー・沖縄の青春』製作上映委員会
- ◇奨励賞・映画『どんぐりの家』全国上映実行委員会
- ◇奨励賞・人吉くま映画文化協会
- ◇感謝状・故 木下恵介氏

□第 17 回 [1999 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・映画『チンパオ』の中田新一監督
- ◇奨励賞・映画『アイ・ラブ・ユー』の大澤豊監督・米内山明宏監督とスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『日独裁判官物語』製作普及 100 人委員会と片桐直樹監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・京都映画サークル協議会
- ◇特別賞・羽田澄子監督
- ◇特別賞・岡崎宏三氏
- ◇感謝状・故 管家まり氏

□第 18 回 [2000 年度]

- ◇復興賞・映画『郡上一揆』
- ◇奨励賞・映画『ナビィの恋』の中江裕司監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・阿部 勉応援団
- ◇奨励賞・映画『アイ・ラブ・ユー』山形県下 44 市町村上映運動
- ◇奨励賞・松竹労働組合大船分会の仲間たち
- ◇特別賞・株式会社近代映画協会
- ◇特別賞・共同映画株式会社

□第 19 回 [2001 年度]

- ◇復興賞・映画『ホテル』
- ◇奨励賞・『日本鬼子』製作委員会
- ◇奨励賞・映画『チンパオ』上映推進 1000 人委員会 酒井哲雄氏
- ◇特別賞・映画演劇労働組合総連合 [映演総連]
- ◇感謝状・故 伊藤武郎氏

□第20回 [2002年度]

- ◇復興賞・羽田澄子氏
- ◇奨励賞・映画『阿弥陀堂だより』の小泉堯史監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『住井すゑ 百歳の人間宣言』の橋祐典監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・映画センター全国連絡会議

□第21回 [2003年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『延安の娘』の池谷 薫 監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『ヒバクシャ～世界の終わりに』の鎌仲ひとみ監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『風の舞 闇を拓く光の詩』の宮崎信恵監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『精霊流し』の田中光敏監督
- ◇奨励賞・忍足亜希子氏
- ◇特別賞・鈴木文夫氏

□第22回 [2004年度]

- ◇復興賞・黒木和雄氏
- ◇復興賞・鈴木敏夫氏
- ◇復興賞・桂壮三郎氏
- ◇奨励賞・佐々部清氏
- ◇奨励賞・映画『草の乱』の自主製作上映運動
- ◇奨励賞・記録映画『熊笹の遺言』今田哲史監督

□第23回 [2005年度]

- ◇第1回日本映画復興大賞・新藤兼人氏
- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・『Little Birds イラク 戦火の家族たち』の綿井健陽監督
- ◇奨励賞・『映画 日本国憲法』のジャン・ユンカーマン監督
- ◇奨励賞・『にがい涙の大地から』の海南友子監督
- ◇奨励賞・『時代を撃て・多喜二』の池田博穂監督
- ◇奨励賞・NPO法人 市民シアター・エフ
- ◇奨励賞・「アンゼラスの鐘」製作を支援するナガサキの会
- ◇感謝状・故 樋口源一郎氏

□第24回 [2006年度]

- ◇復興賞・『蟻の兵隊』の池谷薫監督
- ◇復興賞・香川京子氏
- ◇復興賞・㈱マツダ映画社

- ◇復興賞・李鳳宇氏

◇奨励賞・『三池 終わらない炭鉱の物語』の熊谷博子監督

- ◇感謝状・故 田村高廣氏

□第25回 [2007年度]

- ◇復興賞・大澤 豊氏
- ◇復興賞・高野悦子氏
- ◇復興賞・三國連太郎氏
- ◇奨励賞・井筒和幸氏
- ◇奨励賞・柴田昌平氏
- ◇奨励賞・山本保博氏

□第26回 [2008年度]

- ◇復興賞・『母べえ』山田洋次監督ほかスタッフ一同
- ◇復興賞・神山征二郎氏
- ◇奨励賞・『ブタがいた教室』の前田 哲監督
- ◇奨励賞・東北4県における映画『ふみ子の海』の上映運動
- ◇感謝状・故 杉崎光俊氏

□第27回 [2009年度]

- ◇復興賞・映画『沈まぬ太陽』
- ◇復興賞・山本洋子氏
- ◇復興賞・『いのちの山河～日本の青空Ⅱ』製作委員会
- ◇奨励賞・『荒木栄の歌が聞こえる』製作委員会
- ◇奨励賞・橋本信一氏

□第28回 [2010年度]

- ◇復興賞・仲代達矢氏
- ◇復興賞・『アンダンテ～稲の旋律～』の金田敬監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・加藤周一映画製作実行委員会
- ◇奨励賞・映画『月あかりの下で ある定時制高校の記憶』の太田直子監督
- ◇奨励賞・映画『トロッコ』の川口浩史監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『パートナーズ』の下村優監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・故 橋 祐典氏

□日本映画復興会議50周年記念復興賞
[2010年度]

- ◇新藤兼人監督
- ◇山田洋次監督
- ◇山田和夫氏

□第 29 回 [2011 年度]

- ◇復興賞・映画『一枚のハガキ』の新藤兼人監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・西田敏行氏
- ◇奨励賞・映画『ミツバチの羽音と地球の回転』（鎌仲ひとみ監督）
- ◇奨励賞・映画『大津波のあとに』（森元修一監督）および『槌音』（大久保愉伊監督）
- ◇奨励賞・映画『がんばっぺ フラガール！～フクシマに生きる。彼女たちのいま～』（小林正樹監督）
- ◇奨励賞・映画『あぜみちジャンピンッ！』の西川文恵監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・故 武田 敦氏

□第 30 回 [2012 年度]

- ◇復興賞・映画『いわさきちひろ～27 歳の旅立ち～』（海南友子監督）
- ◇奨励賞・映画『希望の国』の園子温監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『放射線を浴びた [X 年後]』の伊東英朗監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・中津川映画祭実行委員会
- ◇特別賞・故 南 文憲氏

□第 31 回 [2013 年度]

- ◇復興賞・映画『少年 H』の降旗康男監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・映画『標的の村』の三上智恵監督
- ◇復興賞・映画『ひまわり 沖縄は忘れないあの日の空を』の及川善弘監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『遺体 明日への十日間』の君塚良一監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『渡されたバトン さよなら原発』の池田博穂監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』の齊藤潤一監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『原爆症認定集団訴訟の記録 おりづる』の有原誠治監督
- ◇奨励賞・映画『食卓の肖像』の金子サトシ監督